

様式第2号（第8条・第9条関係）

令和6年11月13日

白老町議会
議長 小西秀延様

白老町議会議員 会派みらい
代表者 水口 光盛 印

派遣結果報告書

日時（期間）	自 令和6年10月25日（金） 至 令和6年10月27日（日） （2泊3日）
目的地	1.網走市 ・市役所（議会事務局・行政視察） 2.小清水町・防災拠点型複合庁舎「ワタシノ」 3.別海町 ・野付半島 津波避難タワー 4.釧路町 ・津波避難タワーの建設現場
派遣者	代表者 水口 光盛 構成員 前田 博之 田上 治彦
調査事項	白老町役場庁舎は老朽化が進み、新庁舎の建替えが喫緊の行政課題となっている。新庁舎建設を行っている他市町村の事例や事業内容について調査研究する。 既に建設されている津波避難タワー施設を見学し、本町の津波における防災対策について事例調査する。
視察の成果 （具体的に）	別紙のとおり報告いたします。

※ 必要の都度、写真その他を添付すること。

1. 網走市 議会事務局（新庁舎建設担当による事業説明）

網走市役所(人口:32,281人)の新庁舎は、令和6年8月末の完成を目指し、新庁舎建設工事を進めていたが、資材納入の遅延や働き方改革における人員不足などの影響を受け、完成が令和6年11月末、供用開始が令和7年2月下旬にそれぞれ変更となり、現在、建設工事は順次進められている。

10月25日(金)、網走市役所(市議会)を視察し、網走市議会議長より、温かい視察の歓迎のご挨拶を賜り、その後、網走市新庁舎建設担当者より、新庁舎建設における基本構想・設計方針、工事概要についての詳細な説明を受けた。新庁舎建設候補地の選定プロセスが明確に示され、建設場所における事業費の増減や建設地周辺との公共性のあり方について、深く理解することができた。

今回の網走市の視察により、網走市新庁舎建設の現状と今後の展望を把握することができ、建設工事が順調に進み、網走市民に愛される新たな新庁舎が完成することを期待する。新庁舎建設担当の事業説明や建設地の工事現場を視察することにより、新庁舎を建設する際の建設候補地の選定プロセスが重要であり参考となった。



建設工事中の網走市役所・新庁舎

2. 小清水町 防災拠点型複合庁舎「ワタシノ」

令和6年5月にオープンした小清水町(人口:4,373人)の新庁舎を見学した。同庁舎は、健康スポーツジム、カフェ、コミュニティスペース、コインランドリー等、多様な施設を併設しており、住民の健康増進と地域コミュニティの活性化に貢献している。土曜日(26日)の役場の閉庁日に、新庁舎の利用状況を見学し、カフェの店員(地域おこし協力隊)や施設の利用者から話を聞くことができた。新庁舎は、役場機能に加え、住民の生活に密着した多様な施設を併設することで、まち全体の賑わいを創出している。特に、健康スポーツジムやカフェは、多くの住民に利用されており、活気ある空間となっていた。新庁舎は、役場業務の効率化だけでなく、住民サービスの向上にも貢献している。カフェでは、住民同士の交流の場となり、地域コミュニティの活性化に繋がっている。土曜日でも、多くの住民や観光客が新庁舎を訪れており、カフェやコミュニティスペースは活況を呈していた。これは、新庁舎が住民にとって、単なる行政機能の公共施設ではなく、生活の一部となっていることを示唆している。

カフェの店員や施設利用者からは、新庁舎の利便性や多機能性について、高い評価を得ており、地域コミュニティの活性化に貢献しているという声も多かった。小清水町の新庁舎は、役場機能と住民サービス機能を一体化した複合型庁舎であり、その有効性が実証されている。新庁舎は、単なる行政の公共施



設ではなく、地域コミュニティの活性化の核となる施設となりうる。

小清水町の新庁舎の視察を通じて、複合型役場庁舎の有効性と、地域活性化への貢献を実感し、今回の視察で得られた知見を活かし、町民がより快適に暮らせるまちづくりを進めていくため、白老町における新庁舎建設における政策提言を行っていく。



小清水町 防災拠点型複合庁舎「ワタシノ」 施設外観・案内看板



役場庁舎内 案内サイン



施設内の遊具で遊ぶ町民の親子

3.別海町 野付半島津波避難タワー



平成 27 年度に建設された別海町(人口:13,991 人)の津波避難タワーを見学した。同タワーは、野付半島災害時の避難施設として重要な役割を担っており、建設から約 10 年が経過した現在も、地域の安全確保に貢献している。現在でも施設の維持管理は良好であることが確認された。同タワーは、津波などの災害発生時に漁業従事者や観光客などの命を守るための機能を有しており、その目的を十分に果たしている。同タワーは、災害時の避難施設としての役割に加え、平常時には展望スペースとして開放され、地域の住民や観光客に利用されている。野付半島の海岸線が良く見渡せ天候が良ければ北方領土を望むことができ、地域の観光資源としても活用されている点は特筆すべきである。別海町津波避難タワーは、防災と観光の両面において、地域の重要なインフラであることが改めて確認できた。津波避難タワーは、災害発生時の生命線となる重要なインフラであり、本施設の整備により、別海町は津波災害に対する備えを強化し、地域住民の安全確保に貢献している。また、観光資源としての活用は、地域の活性化にもつながる効果が期待される。



4. 釧路町 津波避難タワーの建設現場（建設中）



釧路町(人口:18,390 人)では、釧路川に近接する市街地において、最大約 5 メートルの浸水が想定される地域の公園に、約 1600 人を収容できる津波避難タワーを 4 基建設する計画が進んでいる。そのうちの 1 基である「津波避難タワー新築工事(春日公園タワー)」の建設地の現場を視察した。現地を視察した日が日曜日であったため、工事は休工中であったが、外部から工事現場を見学できた。住宅地にある公園内に建設されている同タワーは、令和7年3月末の完成を予定している。同タワーは、現在は工事中のため工事が完成し、施設が供用開始した後に、建設に関する予算(ランニングコスト含む)や工事概要等について、会派として視察を検討している。釧路町の同事業について今後も注視し、白老町の津波避難タワーの必要性について政策提言する。



釧路町 津波避難タワー完成予想図

5. 視察のまとめ

会派「みらい」による視察研修では、「役場新庁舎の建設と津波避難タワー」をテーマに視察を行った。白老町では、老朽化に伴う新庁舎建設は喫緊の行政課題である。今回の視察では、新庁舎建設を進めている網走市、複合施設として新庁舎を建設した小清水町の事例により、白老町の新庁舎建設を検討する際の先進地視察として大変参考になった。

特に、防災対策と地域活性化を両立させる視点からの新庁舎建設が重要と考える。会派として、新庁舎建設については、今後も調査研究を継続的に行い政策提言する。

また、別海町、釧路町の津波避難タワー施設の見学を通じて、白老町の津波防災対策の課題について調査研究を行い、今後の白老町の防災対策の政策提言に活かしたい。

議員の視察は、町民から多くの関心を集める一方で、その費用対効果について疑問を投げかける声もある。議員の視察は、単なる見学や旅行ではなく、町民の生活をより良くするための貴重な機会であると同時に、町民の貴重な税金が投入されることを忘れてはならない。

議員視察は、費用対効果という観点から厳しく評価されるべきであり、費用対効果を高めるためには、視察の目的を明確化し、事前の準備を徹底し、成果を共有するなど視察後のフォローアップを行い、政策提言など様々な取り組みが必要である。会派の議員一人ひとりが、視察の目的を意識し、その成果を最大限に活かすことで、議員として町民の期待に応えたい。



<小清水町新庁舎 カフェ・コミュニティスペース>